



地域とともにある学校を目指して

天理市では、今年度から地球温暖化、環境問題、食品ロスの問題等の解決に向けて、今まで以上にリサイクルに力を入れる予定です。市内全小学校に秋には給食等の食物残渣を堆肥化できる機械が設置されます。今後、子どもの学習活動と地域の活動が一緒になって環境問題の解決を目指していきます。本校では年に2回PTAのリサイクル運動・使用済みインクカートリッジの収集を行っていますが、今後は地域のみなさんと一緒に常時リサイクルできるものを決め、収集していきたいと思っています。できれば、リサイクルの収益が子どもに還元できるものがないかと考えています。

(集めるモチベーションがあがります。)

保護者の皆様、地域の皆様のご協力、どうぞよろしくお願ひします。また将来、資源収集場所が地域交流の場・地域ステーションとして、また地域の方と子どもとの交流の場として発展していければと考えています。



子どもたちも各学年で自分たちにできる環境に役立つことを考えたり、SDGsについて学習したりしています。5月23日、2年生が南檜垣町の畑でじゃがいもの苗植えを体験させてもらいました。

学校から南檜垣町までの道中、みんなでゴミ拾いをしながら歩きました。すぐに袋がいっぱいになりました。子どもたちは『ぼくたち、地域の役にたったね。』と誇らしげでした。

思いやりの行動

そろそろ梅雨本番の季節をむかえようとしています。傘を持つ日も多くなってきます。

5月31日は、朝から少し雨が降っていたので傘をさしてくる子が多かった日です。傘立てにはどの学年も大半は、きちんと傘にベルトをして、たてかけられていました。ベルトをする意義は为什么呢。傘にベルトをしないと傘が広がって他の人が傘をたてる時に邪魔になります。また傘が広がっていると、傘の中に他の人があやまって傘を突っ込み、壊れてしまう恐れもあります。ベルトをかけてきちんと立てる。これも他の人を気遣う優しさです。

この日、全員が完璧に傘にベルトをしていた学年がありました。6年生です。さすが最上級生ですね。

